



年に生産開始したユニットが使われている。ユニットは電話帖ぐらいの大きさで、値段はおよそ千二百カナダドル。テレビ受像機に装着できるほどの小さな基板に一個ないし十個のシリコン・チップをのせた大衆向けのユニットだと、二百五十ドルぐらいまで安くできそうだという。

ある市場調査は、カナダにおけるテレイドンの利用者は一九八六年までに六十万、一九九一年までには百九十万(戸)に達するだろう、と予測している。情報革命は、まさに現在進行中なのである。

なお、カナダ政府は、これまでテレイドン・システムの研究開発におよそ千三百万ドル(業界はその四倍以上)もつぎ込

「私たちがまずやったのは、相互視覚

コミュニケーション用に、すでにこの分野に足を踏み入れていたヨーロッパの技術者が見落していた二つのきわめて重要な性格をもついくつかのコーディング(コンピューター・プログラムの記述作業)を見出だすことでした。私たちが欲しかったのは、電話線、同軸ケーブル、通信衛星チャンネルあるいは無線放送で伝達でき、しかも受信用端末器がテレビ走査技術を使ったものであろうと、蓄積管あるいはその他のものを使ったものであろうと、受信そしてディスプレイが可能な一連の独立したコード(符号)であり、また技術の変化にしたがって変える必要のないデータ・ベースでした。一九七八年八月に発表されたシステムは、より大きなシステムのほんの基本的な部分です。これにより情報検索ができ、テレイドン端末器同士のツウエイ通信が可能になりました。

今後は、これを基礎に、画像に音声を加えるなど、いろいろな改善がなされるでしょう。」

通信省通信研究センターの

ハープ・ブラウン研究主任

んできたが、世界市場での競争性を一層高めるため、今後二年間にさらに二千七

今後のテレイドン利用

教育、ビジネスなど多方面に

カナダ通信省のデータ・システムズ・研究開発部長ハープ・ブラウン氏によると、テレイドンはまだ揺籃期にあり、現在のところ、情報検索が主体になっている。しかし、近いうちに他の分野に進出し、特に電子郵便、メッセージ伝達、電子情報交換などに関して私たちの考え方を百八十度変えていくことになるだろう、という。ブラウン氏の見る情報革命の例をいくつかあげてみよう。

図書館 理論的には、日本の国会図書館や米国会図書館、大英博物館にあるすべての情報をデータ・バンクに入れ、それを自宅のテレビに映し出して見ることができ。現在のよう図書館がなくなくなることはあるまいが、いちいち図書館で膨大なカタログを調べ、本のページをめくるよりも、自宅にいながらす早く、簡単に、そしてどんな時間にも欲しい情報が引き出せば、ずいぶん便利になることは間違いない。これまで図書館に行く習慣のなかった人でも、気軽に利用できるだろう。

大学 テレイドンを使えば、互いに遠く離れている教師と学生の間で、対話が可能になる。教師は一人一人の学生をテレイドンを通じて、訪れ、勉強を指導し、研究資料にはどういふのがあるか、紹介することもできる。学生はもちろん研究

資料を即座にデータ・バンクから呼び出すことができるようになってくる。学生は教室に出席する必要はなくなり、寮とか食堂といった施設も不要になって、大学は外形的にも大きく変化しよう。

娯楽 近い将来、テレイドンを通じて生または録画した娯楽情報が伝達できるようになる。すでに文字と数字をあわせた画像、点や線などの幾何学記号、低速走査画像などのコード化に成功しており、動画の実験にとりかかっている。これができるれば、テレビ放送の性格が根底から変わるようになる。

ビジネス テレイドンの発達・普及によって、仕事や買い物は自宅でできるようになり、都市の混雑は大きく緩和される。都市の機能も、会社、官庁、デパートなどを中心とするものから、劇場、博物館、レストラン、専門店など文化やレクリエーション施設を中心とするものへ変化するだろう。

ミニミニコミ 誰でもテレイドンを使って、収集した情報を「出版」できるようになる。事業者だと、自分のデータ・バンクを作るか大きなデータ・バンクからデータを借りて、景気や市場の動きなどについて週間レポートをまとめ、契約者に送ることもできるだろう。